

Do you wanna have a baby?

写真/文 越智 隆治



家族で海外に撮影旅行に出かける。それが自分自身の求めるライフスタイル。ただの親ばかと言われてもしょうがないのだけど、やりたいのだからしょうがない。今までに、現在3歳になる長男海友を連れてでかけたのは、生後3ヶ月のフロリダのマナティー撮影を皮切りに、毎年訪れているバハマのドルフィンクルーズ、タイのシミランクルーズ、サイパン、マーシャル、ハワイ、ニュージーランド、トンガ、ヤップ、パラオなどなど。もちろん、楽しいことだけでなく、苦労やハプニングも多かった。それでも、現地の取材スタッフたちから、「また家族で来てください」と言われると、つついその気になって、連れて行ってしまふ。当然のことながら、家族の旅費は仕事ではないので、自分持ち。仕事での利益よりも、普通なら、なかなか経験することが難しい貴重な体験をさせることの方が僕たちにしてみれば、重要だったりするから、そんなことは、まあどうでも良い。

タテマエ上の挨拶の裏を理解するのが苦手な僕らは「また来て」と言われるからには、少なからず、家族で訪れたことに、好感を持ってもらえてるのもだと、思いこんでいる。その証拠に、というわけではないのだけど、実は僕たち家族が取材で訪れた先々で、現地のスタッフたちの間に、取材直後に子供ができるケースが多いのだ。バハマ、マーシャル、ヤップ、そしてパラオ。もちろん、僕らのライフスタイルが100%影響しているとは言わないけれど、あまりお金のこととか、世間体とか気にせず、取材先に家族でやって来るのうてんきさが、「ア～、子供ができてこういう生活ができるのか」と思ってもらえるきっかけになっているの

かもしれない。実際にそう言われたことも多いし。

自分自身、子供ができるまでは、「子供が生まれたら、今のような生活はできない」と勝手に思い込んでいた。でも、いざ子供ができてみると、以前と大して変わらず、家族で旅に出かけている。

いじめ問題から教育基本法の改正へと発展している今の日本の状況。遅すぎるし、いくら法律やルールを変えたところで、人間の根本の心根の部分が変わらなければ、絶対によくなるわけがない。僕はこの仕事をしていて、海に関わって、自由に生きる人々と交流することで、感じるのは、そういう自由な価値観を持った人たちが、もっともっと沢山子供を生んで、楽しい生き方を今の窮屈な日本の人たちに伝える役目をしていければいいのにとことだ。

そういう意味では、写真を撮って、その海を紹介すること以上に、家族で訪れて、現地の日本人スタッフに「子供が欲しい」と思ってもらい、実際に子供を作ってもらうことの方が、よっぽど役に立っているのかな～と思ったりして。

といいつつ、自分たちにも二人目の子供ができてしまった。4人家族で取材先に訪れるのは、今まで以上に大変だけど、「また来て」と言われるから、またいっちゃんです。いけませんかね。